

旧山古志村で災害復興に貢献した経験を活かし、 仮設住宅で暮らす人々の生活の質を向上する

緊急実装活動①「応急仮設住宅の生活環境改善のための統合的実装活動プログラム」

「応急仮設住宅の生活環境改善のための統合的実装活動プログラム」は、福島大学 行政政策学類 准教授の丹波 史紀先生を代表者とする緊急実装活動です。

丹波先生は、新潟県中越地震の際、旧山古志村の復興支援を通じて「コミュニティの維持・再生」を目的に実践的に支援したプログラムを今回の震災で活用し、仮設住宅で暮らす人々の生活の質を向上させるための実装活動を行います。

実装対象は7月までに福島県が建設する仮設住宅24000戸のうち、県内の事業者が建設する応急仮設住宅約4000戸。震災前に築かれていた地域のコミュニティを維持・再生することで、何年もの間不自由な避難生活を余儀なくされる人々の生活の質を、ハード・ソフト両面から向上することを目指しています。

■ 仮設住宅での暮らしを少しでも快適なものにするために

震災で家を失った方々のための応急仮設住宅の建設や入居が各地で始まっています。「仮設」とは言っても2年ほどの避難生活をその場所で余儀なくされる被災者にとって、生活環境や生活の質は大きな問題です。

阪神・淡路大震災では、仮設住宅の入居者が本来の居住地を考慮せずに割り振られたことから、コミュニティが分断・消滅してしまい、不眠や不安からアルコール依存症やうつ病になったり、孤独死が発生したことも指摘されています。

また、新潟県中越地震ではプレハブ型の応急仮設住宅の積雪対策が課題となりましたが、今回も冬には同様の問題が出てくる地域があると考えられます。

丹波先生は、新潟県中越地震の際、旧山古志村への支援を通じ「コミュニティの維持・再生」を図りながら復興に貢献した際に得た知識や経験を今回の仮設住宅に活かし、仮設住宅に住む人々の生活環境や生活の質を向上させることを目指しています。

実装地域は福島県。今年の7月末までに建設予定の仮設住宅2万4000戸のうち、県内の事業者が建設する約4000戸です。福島県産の木材を用いた仮設住宅が多くなる見込みです。また、入居は「コミュニティの維持」が図れるよう、抽選ではなく、集落単位の集団移転が望まれます。

建設計画にあたっては、福島県の協力を得て、ハード面では騒音対策、診療所や集会所・福祉拠点の設置やコミュニティバスの整備など、入居する方々が少しでも快適に生活するための環境を整えるほか、大家族にも対応できる柔軟な間取りの住宅や高齢者のためのケア付き住宅などを

実装したいとのことです。また、会津などの豪雪地帯では積雪や結露防止に役立つ研究成果を実装します。

仮設住宅の建設が終了し入居が始まる8月中旬以降は、生活ソフト面を向上させるための実装活動を行います。生活相談員を常駐させることにより、孤独死を生まないための見守り支援を行ったり、集会所を活用したコミュニティの維持・健康づくりなどが計画されています。また、子どもが落ち着いて学習できるような環境を整えたり、高齢者、障害者、外国人などの特に支援が必要な方々に対するサポート体制、ボランティアセンターなどの整備も行っていく予定です。🤖



実装責任者の丹波 史紀先生



南相馬市の木造仮設住宅の建設現場。プレハブではなく、木造で4000戸近い戸数を建設中。